

第29回発達診断セミナー〈心理専門職コース〉

主催 人間発達研究所
後援 滋賀県(依頼中)
大津市(依頼中)

発達診断セミナーは、心理専門職が発達診断・発達相談や関連する諸科学について系統的に学ぶセミナーです。今回の第IVシリーズでは、発達診断が、子どもや障害のある人たちの発達や教育にどのように寄与していけばいいのかを学ぶことに合わせ、厳しさを増す情勢の中で、心理職として果たすべき役割について考える機会になることを願い、企画をしました。今回のセミナーでは、4歳半頃の時期(2次元可逆操作期)の特徴をおさえつつ、自分で自分を励まし、集団と自分の関係を捉えつつ力を発揮するこの時期の発達について、保育場面や成人期の実践報告もふまえて深めていければと考えています。保育や教育、そして発達相談の現場でも、これまで第一線で活躍されてきた世代から新しく歩み始める若い世代へとバトンが渡されつつあります。発達保障の歴史や新しい心理学的知見に学びながら、この時期における発達や障害を中心に、発達診断やその後の育ちを見すえた支援、また家族や保育・教育現場への支援のあり方を探っていきたいと思います。

発達診断・発達相談に携わるみなさんのご参加をお待ちしています。

テーマ 4歳半頃の発達と障害

対象 発達診断・発達相談に携わる専門職

日程 2016年10月29日(土)・30日(日)

会場 財団法人 滋賀県人権センター「光荘」

大津市におの浜4丁目1-14 (電話077-522-8243)

参加費 人間発達研究所会員 10,000円

会員以外 12,000円

(資料代を含みます)

定員 120人

申込み 専用申込用紙にて。インターネットの申込受付サイトもあります。

締切り 10月21日(金)消印有効

問い合わせ 人間発達研究所

〒520-0052 滋賀県大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

TEL/FAX 077-524-9387 E-mail j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>

日程

※講義の録音、撮影は固くお断りいたします

10月29日(土)	
9:30	受付開始
10:00	開会
	ゼミⅠ 自分と外界との間で揺れ動きながら自制心を獲得していく 時期の発達と発達診断 白石恵理子(滋賀大学教育学部教授)
12:00	
	昼食休憩
13:00	
	ゼミⅡ 成人期だからこそ、たっぷり揺れることを保障する ～二人の症例から学んだこと～ 栗本葉子(社会就労センターこだま) 松島明日香(滋賀大学教育学部講師)
15:15	
	休憩
15:30	
	ゼミⅢ 発達検査から発達の姿・支援のツボにせまるために ——なにをどうとりだすのか: 2次元可逆操作の場合に注目をして—— 中村隆一(立命館大学応用人間科学研究科教授)
18:00	
18:30	～交流会

10月30日(日)	
10:00	
	ゼミⅣ 大きくなるのは難しい4歳児 ——自律的コントロールの育ちと集団・保育—— 岡村由紀子(あおぞらキンダーガーデン園長)
12:00	
	昼食休憩
13:00	
	ゼミⅤ 社会を創る主人公として生きる ——現代社会の変容と発達保障の課題—— 河合隆平(金沢大学准教授)
15:00	閉会

講義内容

ゼミⅠ 自分と外界の間で揺れ動きながら自制心を獲得していく時期の発達と発達診断

このゼミでは、2次元可逆操作を獲得し、その力を充実させていく時期の発達と診断について、昨年度に引き続き、白石氏に報告していただきます。2次元可逆操作期になると子ども達は対の関係で捉えた2つの事象を1つにまとめ上げて捉えたり操作したりするようになります。そのような中で子ども達は相手の思いも捉えながら自分の思いを主張していくようになります。このゼミでは子ども達がどのように自分と他者との関係を結び、また集団の中での自分を位置付けていくのか、子ども達が揺れ動きながら心を育てていく過程について、発達的特徴をふまえながらお話していただきます。さらに、その時期に困難を抱える子ども達の支援や指導のポイントを提起していただきます。

ゼミⅡ 成人期だからこそ、たっぷりと揺れることを保障する～二人の症例から学んだこと～

作業所では、これまでの輝いていた姿が一変して、「無気力」な姿を見せ始める2次元可逆操作期の方々に会うことが多々あります。毎日、植物に話しかける、優しくて穏やかな30代半ばのAさん。長年こつこつと取り組んできた手織り作業を「嫌です」と言うようになりました。時々、違う班に助っ人として参加し始めたAさんには、実は「なってみたい」憧れの人物像があったのです。自分の内面に気づき始める2次元可逆操作期。葛藤しつつも「輝く自分」を目指して一步一步前へ進む成人期の方々の事例を、栗本氏・松島氏に報告していただきながら、4歳半頃の発達の内実やその展開を深めていけると考えています。

ゼミⅢ 発達検査から発達の姿・支援のツボにせまるために

——なにをどうとりだすのか：2次元可逆操作の場合に注目をして——

発達相談・発達診断は、知能検査や発達検査を基盤にして展開します。発達診断では、指数などの数値でだけではつかめないことを再構成することを課題にしています。しかし、それは「可逆操作」など発達段階のような既存のものさしのどこに位置付くかをとりだすことが最も大きな課題であるというわけでないように思います。

発達診断で、根拠と妥当性をもった発達理解の深まりを担保するにはどのような工夫が必要なのか、また支援の方向を探るときにあらたに留意すべき点はなんなのか、を今回の発達診断セミナーがテーマとしている2次元可逆操作を念頭に参加者のみなさんと一緒に考えたいと思います。

交流会（事前にお申し込みください）

児童福祉法の改正などにより、障害乳幼児をとりまく環境は大きく変化しています。そのような中で、自治体や施設で働く心理職として、今後どのように支援のシステムをつくっていくべきか悩むこと、他の職場ではどうしているのか聞いてみたいことなどがたくさんありませんか？

若手・ベテランを問わず、みなさんのご参加をお待ちしております。

ゼミⅣ 大きくなるのは難しい4歳児——自立的コントロールの育ちと集団・保育

このゼミでは、『4歳児の自我形成と保育 あおぞらキンダーガーデン・そらぐみの一年』（ひとなる書房）や『「気になる子」と言わない保育—こんなときどうする？考え方と手立て』（同上）の著者でもある岡村氏より、「自立的コントロールの育ち」について、報告していただきます。子どもが自分と相手の中で自分を調整することは、なかなか難しい……けれども、時間をかけて子どもなりに折り合いをつけようとしています。障害の有無に関わらず、子どもが主体的に変わっていくためには、子どもの興味・関心に合わせた遊びと人間関係（集団の質）が大切です。実際の子どもの姿、保育の中身を岡村氏に紹介していただくなかで、改めて「自制心とはなんだろうか」ということをみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

ゼミⅤ 社会を創る主人公として生きる——現代社会の変容と社会保障の課題——

近年、障害児者を取り巻く制度や政策は大きく変化してきています。その中で子どものためという願いから出発したはずの発達診断が、一方的な社会への適応につながりかねない状況が広がってきています。このゼミでは、現代社会に貫かれている考え方や仕組みについて、制度や政策の概要を含めて河合氏にお話ししていただきます。また発達保障の課題を提起していただきながら、子どもたちが自分らしく自由に生きていくための社会を創るとはどういうことか、その担い手は誰であり、それはどこでどのように育つのか、そして発達診断に求められるものとは何かを学び、これからの発達保障についてみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

●申込方法

- (1) 申し込みは専用申込用紙(払込取扱票)を用い、必ず一人1枚ご使用下さい。
- (2) 必要事項をご記入の上、受講料を郵便局から払い込んで下さい。交流会の参加、不参加のご記入もお願いします。現金書留での送付や、申込用紙を利用しての会費の払い込みはご遠慮下さい。
- (3) インターネットからも申し込めます。人間発達研究所のホームページをご覧ください。
- (4) 申込み締切りは10月21日(金)消印有効です。ただし定員になり次第締め切りますので、特に出張で参加される方はゆとりを持ってお申し込みください。
- (5) 申込み手続きが完了しますと「受付番号」をお知らせします。受付番号は当日の受付に必要です。メールアドレスをご記入の方には、メールでお送りします。
- (6) 宿泊は斡旋いたしませんので、各自でお取りください。
- (7) 昼食は各自ご用意ください。ゴミの持ち帰りにご協力下さい。会場の近隣に飲食店もあります。ご利用の場合は余裕を持ってお出かけください。

●キャンセル

郵送、FAX、メールで人間発達研究所までご連絡ください。キャンセル受付の返信をお送りしますので、必ずご確認ください。

10月20日(木)まで 全額をお返します。

10月21日(金)以降 申し訳ありませんが返金できません。

●交通のご案内

- ・JR琵琶湖線「大津駅」より路線バス「湖岸経由<石山駅>」行または「近江大橋経由<草津西口>」行乗車、「馬場1丁目」下車(230円)。「くら寿司」を左折。緑色の建物。バス停より徒歩約3分。
- ・JR琵琶湖線「膳所駅」よりは徒歩約15分(新快速は止まりません)。
- ・駐車場の確保が難しいため、お車でのお越しはご遠慮ください。

